
発展学習08-2 「北風と太陽」の真相

子どものころトッパンの絵本でイソップ寓話『北風と太陽』を読んだことがあります。ウィキペディアによると、そのあらすじは、



あるとき、北風と太陽が力比べをしようとする。そこで、旅人の上着を脱がせることができるか、という勝負をする。

まず、北風が力いっぱい吹いて上着を吹き飛ばそうとする。しかし寒さを嫌った旅人が上着をしっかりと押さえてしまい、北風は旅人の服を脱がせることができなかった。

次に、太陽が燦々と照りつけた。すると旅人は暑さに耐え切れず、今度は自分から上着を脱いでしまった。これで、勝負は太陽の勝ちとなった。

となっていました。このトッパンの絵本には、川端康成先生による解説がつけられていて、この寓話については、おどかしも、暴力も、しんせつや、やさしいおこないには、とうていできません。と解釈されていました。

このほかウィキペディアでは、

手っ取り早く乱暴に物事を片付けてしまおうとするよりも、ゆっくり着実に行う方が、最終的に大きな効果を得ることができる。また、冷たく厳しい態度で人を動かそうとしても、かえって人は頑なになるが、暖かく優しい言葉を掛けたり、態度を示すことによって初めて人は自分から行動してくれるという組織行動学的な視点もうかがえる。

という教訓が紹介されていました。

しかし、ここで「阻止の随伴性」による説明を試みると、

- 北風は、「コートをしっかり掴まないと寒さという嫌子が出現する」という「嫌子出現阻止」の随伴性により、コートを掴む行動を強化してしまった。
- 太陽は、「コートを脱げば、暑さという嫌子が消失する」という「嫌子消失」随伴性により、コートを脱ぐ行動を強化した。

となります。重要な点は、どちらも旅人に行動を強制している点です。太陽のとった方法は決して「しんせつややさしいおこない」ではありません。コートを脱ぐ行動のほうがより任意性が高いため、旅人が自分の意志でコートを脱いだと誤解されやすいことは確かですが。